南国市制施行30周年記念

写真集　レトロ南国

限定4,000部

市役所・市農協で好評発売中

南国市制施行三十周年記念事業の一環として制作された記念写真集『レトロ南国』を発売しています。

南国市の今昔を伝える「レトロ南国」は多くの市民の皆様から提供されたものを含めて五百二十七枚の写真が使用され南国市の歴史が一目でわかる貴重な写真集です。

〝先人の営みを知り次代へと継なぐタイムカプセル〟となるこの写真集をぜひお求めください。予約されていない方もお求めできます。四千部の限定販売ですのでお早めにどうぞ。

◪**販売先**　南国市農協本所・各支所、市役所企画課・各支所

◪**仕様**　A四変型版（箱入り）二一〇㍉×二八七㍉、三〇四㌻

◪**価格**　三千円

◪**内容**

○アングル'89

○あの道この道

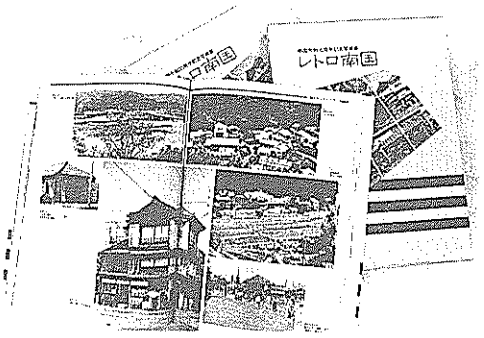
○土佐のまほろば

○空の軌跡

○レトロ南国

※詳しくは、**市役所企画課**（☎㊸2111内線421）までお問い合わせください。

【企画課】



――同和教育シリーズ――

部落に対する誤った俗説について①

九月三日の高知新聞に〝韓国名誉総領事に沈寿官さん〟の見出しで『文禄・慶長の役の際に、朝鮮から日本に連れてこられ、薩摩焼を興した陶工の十四代目に当たる「寿官陶苑」の当主、沈寿官さん（六十二歳、本名＝大迫恵吉、鹿児島県東市来町）が、韓国政府から日本で初めての名誉総領事に任命され、今月十四日、鹿児島市内のビルの一室に「名誉総領事館」が設けられ、委韓国大使らを迎えて開館式が行われる。』との記事が報道されました。

よく世間では「被差別部落の人たちは、秀吉が朝鮮征伐をしたとき連れてこられた補虜の子孫だ」との俗説を信じている人がかなりおり、ある町の意識調査では約二十二％にも及んでいます。もちろん今日の時代に国がどこであれ、人間が人間を差別することは許されないことですが「部落の人は、朝鮮征伐のときの補虜の子孫」という考え方は、とんでもない偏見です。

「秀吉の朝鮮征代」のとき、出兵した当時の大名たちは、競って朝鮮の人たちを連れてきましたが、これらの人たちは、当時の日本にはなかった技術や、はるかに進歩した特別の技能（陶工・織物工・その他）を持った人たちが大部分で、各藩の大名は、この人たちを厚遇し、その子孫も、先の鹿児島の沈寿官さんのように自分の祖先を誇りに思って胸を張って生きています。

土佐の長宗我部元親も、文禄二年六月に朝鮮の秋月城を攻略し、城主、朴好仁他三百八十人余を連れ帰り、この人たちは意宗我部が滅び、山内一豊が国主になり、慶長六年、山内一豊入国の節、好仁とその子元赫にお目見えおおせつけられ「浪人にてまかりあり候」と答えたところ、一豊の御意をもって、城下町の一部に土地をいただき、豆腐製造の専売特許権を与えられ、高知城下に住むようになりました。この由来によって、この土地がのちに唐人町と呼ばれるようになりました。

朴好仁の子、元赫は後に秋月長佐衛門と名を改め、子孫の秋月弥五衛門届け出の「秋月家系譜」によると、代々山内家の上級武士の家と縁を結び、郷士になった者や、高須、介良の庄屋になった者もおります。

また、佐川の深尾一万石の侍市原浅五衛門の先祖は、倉並氏といって、加藤清正の朝鮮出兵のときの補虜として連れてこられ、清正に仕えていたが、加藤家没落後、土佐に来て深尾家に仕えたと記録されています。

長宗我部元親の一代を記した「元親記」には、長宗我部の先祖は「大唐の人、秦の始皇帝六代種の流れ、日本へ渡りて、初め信濃の国に住む」と書き、先祖が中国人であることを誇りにしています。

当時の日本では、中国や朝鮮の人たちを、べっ視したり、差別する考えは全くなく、中国や朝鮮を「文化の進んだ国」として尊敬していました。

現在までに、被差別部落と朝鮮から連れてこられた人たちを結びつける史料は見当たらず、「朝鮮征伐での補虜の子孫」説は何の根拠もない偏見なのです。